

# 初出式と七草粥

富江 文雄

## 「初出式」

令和4年の初出は1月6日、コロナ感染症がひと息ついたところだが、新しい変異株(オミクロン株)の登場でまだまだ予断を許さない。例年ならばあるべき、「餅つき」「お祝いの振る舞い酒」共に無かったが、お昼に七草粥の提供があった。

定刻には雪混じりの寒風が吹く中で、70人以上が集まり、千載会長が挨拶に立った。就任して初めての初出式であり、「奈良・人と自然の会」創立20周年を祝うと共に、改めて会のさらなる飛躍と会員の健勝を祈念する発言があった。



## 「10年継続会員の表彰」

今年はその後直ちに、10年継続会員の表彰と記念植樹があった。今年の10年継続会員は、青木幸子、岡崎節子、田中克彦、富井忠雄、羽尻嵩、村上雄之の6氏で、昨年まで続いた「実りの森」での植樹と異なり、ベースキャンプに近い「山野草跡地」に藤の木を植えることになった。

ノダフジの一種である「九尺フジ」で成長が早く、数年後には立派な藤棚が出来、5月に美しい花で目を楽しませてくれ、夏には涼しげな緑陰を作ってくれる事だろう。



6氏を代表して羽尻さんがこの10年間の歩みを回顧して、会に入った頃には会員数が40有余人であったのが4倍以上に増え、その活動内容も充実してきているのが頼もしい。ただ一方ではグループ別になり個人の自由な活動が、少なくなっている様に感じられる。これからも健康が許す限り活動を行きたいとの発言があった。



## 「七草粥の提供」

記念植樹のあと通常の活動に入り、12時前には「七草粥」が出来上がった。女性会員がならやまで採取した野草で七草が集まり、おいしい粥を十分に味わうことが出来た。



昼食後も活動を続けて、初日を終えた。